

翔生 (しょうせい)

Symbol Logomark これまで各地商工会議所で使用されている商工会議所マークの下に、ゴシック体でデザインしたシンプルで馴染み易いロゴマークとなっています。ロゴは、商工会議所青年部の英語名 (Young



発行 全国商工会議所青年部連合会
東京都千代田区丸の内3-2-2
日本商工会議所中小企業振興部内
☎03-3283-7847

編集 広報委員会

平成6年 (1994年)
11月1日号
通巻 第17号
(年2回 3月・11月発行)

Entrepreneurs Group)の頭文字をとったものですが、同時に商工会議所青年部の持つコンセプト(若さ、情熱、広い視野をもった経営者= Youth, Energy, Generalist)を表しています。

第14回 商工会議所青年部全国大会〈長崎大会〉

人が接点、地域が原点、ふれあい、長崎見聞学。

大会会長 松田 祥吾

第14回 商工会議所青年部全国大会 (長崎大会) スケジュール

11/24 Thursday

- YEG親睦ゴルフコンペ 9:00~16:00 大村湾カントリー倶楽部
- 商青連拡大役員会・前泊者懇親会 19:00~21:00 ホテルニュー長崎
- ゴルフ表彰式 19:00~21:00 ホテルニュー長崎

11/25 Friday

- 商青連諸会議 9:30~12:30 ホテルニュー長崎
- 登録受付 12:00~18:00 長崎県立総合体育館
- ビジネス交流プラザ 12:00~20:00 長崎県立総合体育館
- 企業見学 13:00~16:00 三菱重工業㈱香焼工場
- QBサロン 15:00~18:00 長崎県立総合体育館
- 会員総会 15:30~16:20 長崎県立総合体育館
- 記念講演 16:30~18:00 長崎県立総合体育館
講師: ハウステンボス㈱ 代表取締役社長 神近義邦氏
演題: ハウステンボスのアジア戦略
- 懇親会 18:30~19:45 長崎県立総合体育館

11/26 Saturday

- 登録受付 9:00~9:30 長崎県立総合体育館
- 記念式典 9:30~11:30 長崎県立総合体育館
- 1. 開会宣言
- 2. 「君が代」斉唱
- 3. 「商工会議所青年部の歌」斉唱
- 4. 商工会議所青年部「綱領」朗読「指針」唱和
- 5. 全国商工会議所青年部連合会会長挨拶
- 6. 日本商工会議所青年部頭挨拶
- 7. 長崎県商工会議所青年部連合会会長挨拶
- 8. 長崎県商工会議所連合会会長挨拶
- 9. 主催者紹介
- 10. 来賓祝辞
- 11. 来賓紹介
- 12. 祝電披露
- 13. 講話
日本商工会議所 会頭 稲葉興作氏
- 14. 参加青年部紹介
- 15. 次年度全国商工会議所青年部連合会会長挨拶
- 16. 次年度全国大会開催地発表
- 17. 閉会宣言
- エクスカーション



ごあいさつ

全国商工会議所青年部連合会 会長 佐藤 善三郎

7月、伊万里から始まり、安芸、小山、伊勢、亀田、根室、田辺、柳井、山形と全国を九つにわけて行われたブロック大会は、運営研究会からブロック大会と名称を変更し、YEGとしてのビジョンや道府県連、ブロックのあり方を語り、交流と連携を深め、意義ある大会としていただきました。主管していただいた各地YEGの皆様は紙面をお借りし感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、このブロック大会の集大成ともなる全国大会は今後のYEG活動の基盤となる重要な大会であります。

「明日への創造 地域に挑むYEG」のスローガンを掲げて、創造性、独創性を持って地域に挑んでいこうと活動してきました本年度、本大会に多くの方々にご参加いただき、語り合い、刺激し合い、より強固なネットワークを築き、さらにそれを経済団体としてビジネスネットワークへと発展させていこうではありませんか。

この大会が明日への創造の場となることを確信しております。全国のYEGの皆様、長崎でお会いできるのを楽しみにしております。

「明日への創造 地域に挑むYEG」の商青連スローガンのもと平成6年度第14回商工会議所青年部全国大会・長崎大会を長崎県商工会議所青年部連合会の主管により長崎市にて開催させていただきます。

日本列島の最西端に位置する長崎は古くから大陸文化との交流点として重要な役割を演じて参りました。出島をはじめ多くの入りがそこて出会いそしてふれあいが生まれてきました。

「人が接点、地域が原点 ふれあい長崎見聞学」の開催地キャッチフレーズはそんな長崎の歴史的背景をふまえながら新しい時代への

交流の足かりを模索し地域社会へ青年経済人としての提言を促し明治維新の傑

人達と同様長崎で少しも見聞を広げていただきたいという思いを込めたもので

す。

大会初日11月24日はYEG親睦ゴルフコンペ、拡大役員会・前泊者懇親会、大会二日目11月25日は商青連諸会議、世界的スケールの百万トンクックをはじめ最新鋭の造船設備を誇る長崎三菱造船所の企業見学、日本を代表するテーマパークハウステンボスの社長神近義邦氏による「ハウステンボスのアジア戦略」と題した記念講演、そして経済団体であるYEGの全国的ネットワークを利用した本品配布など自社の企業活動に役立つビジネス交流プラザ、また懇親会では「異

国情緒のふれあい」、「心のこもったおもてなし」を基本コンセプトに和・華・蘭文化ともいわれる独自の食文化を存分に「貫いた」いただき、アトラクションには長崎ぐんちでも有名な龍踊りをご披露しお楽しみいただきます。

大会三日目11月26日は日本商工会議所会頭稲葉興作氏からの貴重な講話をはじめとする式典が催され、その後は県内各地へのエクスカージョンへと研鑽の輪を拡げていただきます。

今大会へご参加いただいた皆様方を快くお迎えすべく、長崎県連メンバー一丸

となつて着々と準備を進めております。異国文化の交流点長崎におけます第14回YEG全国大会、皆様方のお越しを心よりお待ちしております。

●主催/全国商工会議所青年部連合会
日本商工会議所
●主管/長崎県商工会議所青年部連合会
●開催地青年部/長崎商工会議所青年部



大会成功を誓い合う、松田祥吾大会会長と前田茂大会実行委員長



北海道ブロック ●根室大会

商工会議所青年部北海道ブロック大会が根室青年部の主催により9月21日に開催された。大会には商青連会員約200名が出席、又今年青年部設立が予定されている釧路商工会議所からも出席した。

研修会では、佐藤善三郎会長の基調講演の後、パネルディスカッションを行い、佐藤会長からの要請により、開催地である根室市の最大



の問題である北方領土問題とロシアとの交流の現状について、根室青年部河原会長から、北方領土問題の歴史や現島住民とのビザなし交流が始まった経緯等につき説明がなされた。その後の意見交換では会場からも活発な発言があり、地域

東北ブロック ●山形大会

10月15日山形市「山形国際交流プラザ」において、「第13回商工会議所青年部東北ブロック大会山形大会」が開催された。

当日は秋晴れの爽やかな天候に恵まれ、東北各県から500名を越す会員が参加。山形の秋の風物詩である「いも煮」の昼食後、武蔵・分科会・全体会議・YEGミニメッセ・親睦会等がとこおこなわれ運ばれた。



が展開され、非常に有意義なものとなりました。また、日本の秋「やえ渡る月」見聞し「かぐや姫」をコンセプトとした親睦会も、会場入り口など随所に竹をディスプレイし、オープニングでは暗転した会場に流れ星が流れ、同時に二単に身を包んだかぐや姫が竹やぶから登場するなど、凝った演出に会場から拍手、歓声が起りました。

親睦会後半には、長崎YEGより全国大会PR、京都YEGより中央研修会、八戸YEGより次回東北ブロック大会PRが行われ、全員が再会を誓い、閉幕しました。

中国ブロック ●柳井大会

10月7・8日の両日、第12回商工会議所青年部中国ブロック大会を山口県柳井市において柳井商工会議所青年部の主催で開催された。大会の行われた2日間は晴天にも恵まれ、中国5県を中心に約500名の青年部会員が参加した。

大会1日目は、エクスカリションを中心に、柳井センター1倶楽部に於いて親睦ゴルフ大会(74名参加)大島瀬戸の鯛釣り(4名参加)を行い、夕方4時から柳井クルーズホテルに於いて、国土庁計画調整局総合交通課長・大石和久氏による特別講演会を「地域連



携軸構想・地域の自立と責任」と題して行った。その後約150名が参加して行われた前夜祭の中で、ゴルフ大会の表彰と鯛釣りの釣

と題し、座談会形式で地方分権、地方自治について熱くお話しいただいた。午後からは、佐藤商青連会長を講師に「おそう行動YEG」と銘打って積極的な青年部活動について話し合う第1分科会と、東京オリンピック・女子バレーボール金メダリストの井戸川絹子さんを講師に「東洋の魔女に見る人間開発」の演題にてご講演いただいた。第2分科会を行った。その

間、商青連単会間の連携の必要性が確認された。又、根室青年部は「根室アピール」を発表、地元としての情報発信が行われた。講演会にはTBS秋山豊寛氏を講師に迎え、旧ソ連の宇宙船に乗り込んだ体験を踏まえた講演が行われた。翌日はビザなし交流使用船「コラルホワイト号」による北方領土洋上視察を実施、地域の特性を活かした大会との評価をいただいた。

日本を縦断、YEGの熱き“連携軸” 全国でブロック大会を開催

7月に九州でスタートした全国商工会議所青年部連合会のブロック大会は、東北で幕を閉じました。この2カ月間各地で若き企業家集団が集い、明日の地域社会について話し合いました。そして誓い合いました。「YEGこそが、真の地域の担い手に」と。

北陸信越ブロック ●亀田大会

第14回商工会議所青年部北陸信越ブロック大会は、9月17日亀田商工会議所青年部主催により総勢430名で亀田町民会館・亀田町公民館で開催されました。

「明日への創造 地域に挑むYEG」をテーマにした3つの分科会に分かれ、第1分科会は「起こそう行動YEG」、第2分科会は「地域活性と祭り」、第3分科会は「青空バザール7年間歩み」をテーマに、各々思い思いの考えをぶつけ合い持ち帰る程、激しいディスカッションをかわしました。

全体会議では、商青連



佐藤会長、日商稲葉会頭(代理)、亀田 塚原会長、亀田阿部会頭より挨拶を頂き、来賓の各界代表の方々より青年部より充実した活動に期待を寄せた祝辞を頂きました。

記念講演では、山本晋也監督を招き、フランスの中から見た現代社会をテーマにした風俗を通しての人間像をユーモアたっぷりにお話して頂きました。

懇話会では、山本晋也監督が、会場を移動し新潟市内のホテルで行い、平山征夫新潟県知事より挨拶を頂き地元への絆を深め、日本海の素材を生かした、美味しい料理を生かした、美人のお酌で夢みる様な時間を満喫しました。懇話会も盛り上がり、各々夜の「新潟古町」のネオン街に姿を消し無事日程を終了いたしました。

東海ブロック ●伊勢大会

9月9日東海ブロック大会当日、20年に一度の御遷宮を終え生まれ変わった伊勢神宮のお膝元に近く、近づくから集った東海三県を中心とする青年部メンバー、前泊の方々も前夜の疲れもみせず元気に揃った正午、いよいよ開会です。

オープニングは今大会のサブタイトルとなった天の岩戸の物語に沿った演劇「アマトラス物語」に感動



東海ブロックの一日はアツという間に過ぎていきました。伊勢のメンバーには冷や汗ばかりの一日でしたが、お祭り時の参加者の笑顔でこれまでの苦勞をすべて「連帯感」という絆に昇華させて頂きました。参加いただいた青年部メンバーはどんな汗でしたでしょうか？機会がありましたらお聞かせ下さい。

では、また来年度、瀬戸でお会いしましょう。

近畿ブロック ●田辺大会

第12回商工会議所青年部近畿ブロック大会を、台風一過の9月30日と10月1日、和歌山県田辺市において盛大に開催、お互いの交流と友好を深めた。

初日は、地元産物を中心とした大懇親会を開き、田辺YEGの運営する女性による太鼓「弁慶鬼若太鼓」の演奏や和歌山県下の名産品の抽選会などを楽しんだ。

2日目は、長崎YEGメンバーによる全国大会のPRもにぎやかに進められた。

午後には、人気急上昇中のテレビキャスター若林正人が「国際化の時代にかかるとは」というテーマとする記念講演を行い、冒頭得意の夜中継で会場を沸かして、長年にわたる海外生活での豊かな経験に基づき日本人と欧米人の倫理観の違いなどについて話した。



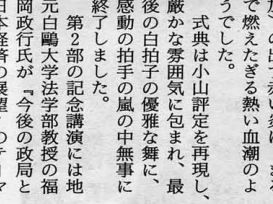
介があり、全員の来年の高石での再会を約束した。また、長崎YEGメンバーによる全国大会のPRもにぎやかに進められた。

午後には、人気急上昇中のテレビキャスター若林正人が「国際化の時代にかかるとは」というテーマとする記念講演を行い、冒頭得意の夜中継で会場を沸かして、長年にわたる海外生活での豊かな経験に基づき日本人と欧米人の倫理観の違いなどについて話した。

関東ブロック ●小山大会

平成年度 第14回商工会議所青年部関東ブロック大会小山大会を「平成の決断 小山評定」時代は今日ー小山から変わる

平成年度 第14回商工会議所青年部関東ブロック大会小山大会を「平成の決断 小山評定」時代は今日ー小山から変わる



分科会は「おこそう行動YEG」が統一テーマの佐藤会長の基調講演、沼津・前橋・古河の各YEG事例発表の第1分科会と、KD視察や東邦生命社長太田清蔵氏・民俗研究家尾島利雄氏の講演等があり、その後の懇親会では、和気あふい後と各青年部との交流が深められました。

翌日のエキスカリション「神鳥谷カントリーゴルフコンペ」には地元市長も参加し、大いに盛り上がりま

九州ブロック ●伊万里大会

第14回商工会議所青年部九州ブロック大会は、7月22日(金)・23日(土)の両日古伊万里市で開催された。伊万里市で開かれた。大会当日は記録的な猛暑の中、全国各地の理事の方々もご参加頂き、76単会1017名の登録を得、商青連佐藤会長の「地域を原点に起業家精神で活動を」の挨拶で幕を開けました。

式典後は4つの分科会に分かれ、青年部活動の在り方や地域活性化についてのテーマ別研修、伊万里焼窯元の視察会等熱心な研修が行われた後、夜の懇親会へと移行しました。

大会の成功を左右する？大懇親会では、長崎の蛇踊りや次年度車間の親子太鼓等にてぎや時間を忘れての大交流が展開され、遅くまで伊万里ナイトを満喫頂けた事と思います。

100%設置の記念大会

四国ブロック大会は8月25日から、27日まで高知県安芸市で開催されましたが、島外からも多くの登録を戴き、今治YEGの小島高志君が急死するという大変不幸な出来事があり、今も心が痛む想いです。小島君は、熱心なメンバーであり、種々の大会に多くのご出席をしてくれておりました。

小島君の意志を引き継ぎ、青年部活動をより活発にしていく事が、何よりの供養



平成年度 第14回 商工会議所青年部 四国ブロック大会 大懇親会

「初心者マークを外した2年目」

滝川商工会議所青年部(北海道ブロック)

なんと早くも1年間の設立してほんの少しが経ちました。いろんな事業をやらせていただきました。外部から見るとうまだなんでしょうが、とにかく時間が足りないです。皆、何よりも仕事に頑張っているから、でも根付いてます。確実に、絶対に根付いてます。

今、翔生への掲載にあたり設立後の1年少々を振り返ります。まだまだ手探りですが、この10月に初めて対外的にアピールするビッグな企画を紹介いたします。いま各地でブームではありませんが、わが滝川において未だ、地ビールが上から下まで残念の思いが



「世界のビアフェスタ」を開催いたします。世界という言葉からはビールを通しての世界交流等、夢も膨らんでいます。いまプロジェクチームは超燃焼です。ある意味で真価を問われるかも知れません。ご期待願います。

わが町、滝川は北海道の「一級河川「石狩川」と「空知川」の合流する地点です。ここにビール、水、泡のイメージがあります。川の流れるようにという歌もありますが、時に激しくぶつかり合う水のエネルギーを我々は感じています。いま川にありまして。このイメージをテーマにした豪快な祭りがあります。「しぶき祭り」と言います。今年で10回目の区切り年でした。いっしょに盛り上げ、たくましいものでした。ここに紹介いたします。

今年には稀に見る大猛暑で、水を命に考えたとき、清流のごときエネルギーで立ち向かいます。

またじゅうもじゅうへ!

一関商工会議所青年部(東北ブロック)



当青年部は昭和57年7月に設立以来12年が経過し、79名の構成でなる青年部です。平成6年度は企画運営委員会・経営研究委員会・会員強化委員会・夢'21委員会の4委員会を設置し、積極的に活動しております。また、活性化事業の一つである市民参加の「おもしろ市」も今年で3回目を迎え、「懐かしのシネマ上映」「まちじゅうおもしろラリー」「まちじゅうおもしろマップ」の作成等、生産者・消費者・消費者との互いの協調・融和・思いやりの育む、楽しい生活の場を創造する事業として盛大に開催したいと思っております。さらには、会員家族交流の一環として地引き網・芋の子会・クリスマス会等の事業も予定しております。本年は、会員組織をさらに拡大強化すべく、会員数100人をめざし会員募集活動を行ってまいりたいです。経営の勉強と地域の経済発展を図るべく、講演会・講習会・移動研修等を積極的に実施し、次代を担う人材育成に活動を展開しております。

「熱く燃えた夏ー豊田おいでんまつりー」

豊田商工会議所青年部(東海ブロック)

「おいでん、みりん、おどろまい」のディスコ調の曲に乗せて355の踊り連、2万5千人の市民が踊る「豊田おいでんまつり」の総踊りが7月29、30日に盛大に行われました。

我が青年部も、商工会議所が祭りの実行委員会の一員でもあるので、地域に開かれた事業を全面的にバックアップしようと、毎年張り切って参加しています。今年も踊りコンテストの最優秀賞「おいでん大賞」をめぐり春から準備を開始、百日前には神社で必勝祈願、踊り連参加登録では徹夜でエントリーナンバー1番を獲得、踊り連代表「選手宣誓権」を手に入れました。スタート位置の抽選会には好スタート位置を得ようと催事委員長が矢作川を赤ペン姿で渡る「みそぎ



を行う熱の入れよう。本番1週間前と2週間前には青年部主催の「おいでんまつり」の講習会を駅前で開催し、祭りの盛り上げに積極的に貢献しました。いよいよ本番。青年部踊り連と踊り連(おどれん)は全踊り連の代表で「宣誓」して開幕。ひたすら踊り、熱く燃えた2日間でした。結果は健闘賞。でも、みんなの心がひとつになった感動の夏の夜でした。

日本一のカヌーマラソン

新宮商工会議所青年部(近畿ブロック)



近畿一の大河熊野川を舞台に開催される熊野川カヌーマラソン大会。熊野の大自然を多くの人に感じてもらうべく、熊野の魅力をもっと発信しようという思いで今年へPRしようとする1989年にスタート。今回で6回目を迎え、京阪神を中心に全国から437名の参加者があり、数多のカラーフルなカヌーが熊野川とみごとなコントラストを映し出しました。

熊野川青年会、熊野川町商工会、新宮青年会議所など多くの団体と熊野の自然とカヌーを愛する人達の協力によって支えられています。

日本一に成長した熊野川カヌーマラソン大会。この大会を通じて、熊野川の清流を守り、育んでいきたい。そんな気持ちをもつ多くの人が感じています。

特集 全国各地の青年部活動レポート

「明日への創造 地域に挑むYEG」

北から南から、地域で奮闘するYEGの声が届きました。友情、交流、研究...若き企業家集団のネットワークが、いま大きな広がりを見せています。変革の時代を乗り越え、21世紀に向かってYEGの挑戦は続きます。

10周年事業を終えて

諏訪商工会議所青年部(北陸信越ブロック)

映画「ガイアシンフォニー」をどうしても諏訪の人達に観てもらいたい。この

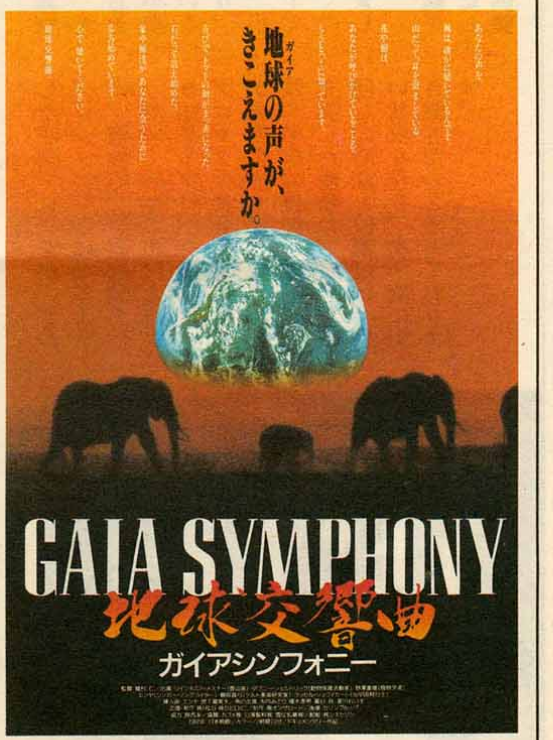
感動の映画を10周年事業の目玉にしようと決めた、徳川家康の六男・松平忠輝公の311回目の命日(7月3日)に開催することができました。

1926年宮沢賢治が「世界せんだいが幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」と予見した様に、地球全体が幸福を実感するために私達一人一人

が利己心を捨てる事だを基本理念にイベントテーマを「捨しや」としました。「くよくよする事を止めよう、病気に囚われたり、境遇にくじけたり、家や宗傳に心を奪われず、生命の偉大さに目覚めよう。生命の限りを生き抜こう。地球の生命を民族の生命を文化を次の時代の走者に見事に引き継ごう。...もういいか

げんで人間としての本分、喜びを取り戻そう。利己の意識は個人から集団社会宇宙へと次第に進化する。あなたが変われば地球が変わる。」

という天の人・松平忠輝公の啓示を聞きながら、混沌の世の光明を見るための、青年部10周年事業すべてのイベントは終わりました。



「全国風揚げ大会」

前橋商工会議所青年部 関東ブロック



青年部主催の全国風揚げ大会が、3月7日の日曜日に盛大に行われました。

古くから日本の伝統ある遊びとして行われていた風揚げは、上州の風には最適な遊びです。この前橋で行われる事を聞いた、全国の風の愛好家の方々が熱い期待を受けていました。

前日の前夜祭は、日本の風の会・風愛好家の方々約120名を迎えて、前橋市長、青年部代表幹事、事務局が出席、華龍太鼓や風の会のオーケストラが行われました。

利根川の流れる赤城山を背景に数百年の風が空に舞い、敷島公園河川緑地の広場は風を揚げる人々で一杯でした。風作りのコーナーやトン汁のコーナーは長蛇の列で待つこと数十分。参加者の楽しそうな姿を見て、この大会を行って本当に良かったと思えました。

風の会のスタント風(スボットカイト)の妙技、そして最後に行われた大風揚げの部では、我々青年部大奮闘の手作りのガムマ絵入り大風、群馬県観光課はぐんまちゃん。そして市制100周年のマスコット「ふーちゃん」の大風、白根の二十四畳の大風など大空に舞い揚がったときは、主催者でありながら時間を忘れて見入ってしまうほどの感動でした。

ASEANとの交流も

徳島商工会議所青年部(四国ブロック)

関西国際空港の開港や、明石海峡大橋開通予定など、徳島にも新しい時代の流れがおよびてきています。こうした中で青年部では総務、交流、第一県の諸政策への対応、第二市の諸政策への対応、第三(工業関係)第四(商業・金融関係)、第五(労働・調査)の七委員会を組織し、事業活動を行っています。一例として第五委員会は労働問題に取り組んでおり、本年度は(1)労働組合との懇談会、(2)外国人労働者との対話、(3)外国人労働者対策(工業関係)第四(商業・金融関係)、第五(労働・調査)の七委員会を組織し、事業活動を行っています。

一括しようと取り組んだのが「ASEAN労組代表との懇談会」でありました。ASEANチームは、インドネシア、フィリピン、シンガポール、マレーシア、タイの5ヶ国10名とティールを挟んで各国通訳付きの会談となり、和気あいあいのなかで懇談会は成功に終わり、最後に「阿波踊り」をみんなで踊り友好も深めました。

我々、徳島商工会議所青年部が何をなすべきか原点を見直し、切磋琢磨しながらバイタリティーをもって



地域社会の発展に挑戦しています。

「発信! 未来の米子に向けて」

米子商工会議所青年部(中国ブロック)



当青年部は「人が集う街米子」をテーマとして、街をいかに活性化するかを考え、その中で核となるコンベンションホールが是非必要というところで、継続事業として建設に向けて運動してまいりました。

そして昨年、ホールの建設も決まり、また、コンベンションビュローも県のほうで設立していただく目処が立ちました。街づくりとは、このように自分たちの町をどのような街にした

「全日本トライアスロン 宮古島大会」を支える

沖縄宮古商工会議所青年部(九州ブロック)



トライアスロンは、ラテ語の数字の3という意味と、スポーツを意味するア

スロンとの合成語で、水泳・自転車・マラソンの3種目を一人で連続して行い、その総合タイムを競う競技です。日本では、1981年昭和56年に行われた鳥取県の皆生大会が初めてのトライアスロン大会で、1985年(昭和60年)4月に「第1回全日本トライアスロン宮古島大会」が開催され、NHKの全国放送で生中継された事を契機に、全国にトライアスロンブームが広がりました。

沖縄宮古商工会議所青年部では、第1回大会から今年第10回大会まで、陰の力の食糧部を担当しており、夜祭(ワイドパーティー)後夜祭(ふれあいパーティー)の料理発注及び準備・運営・後片付けと大会当日の21カ所のエードステーション選手の飲食物やスポンジ等の受渡場所の準備・配布及び大会役員・ボランティア総勢6500人の弁当の配付などです。除で大会成功の為に頑張っている青年部であります。

これからも、地域経済発展の為、当青年部は地域の各種イベントへ積極的に参加してまいります。

平成7年2月22、23日

第12回 中央研修会を京都で開催! 女性会員だけの分科会も

いよいよ中央研修会の準備もおおづめを迎え、この原稿が掲載される頃には皆様御登録の案内をさせて頂いている予定です。一人でも多くの方にお越し頂いて皆様に満足して頂ける様、商青連研修委員会の方々と共に準備を進めております。

佐藤会長の基調講演をはじめ、地域連携軸と青年部活動の講演、パネルディスカッションではYEG活動を検証し、今後に向けての議論を予定しております。

分科会では次年度会長研修、会長役員研修、事務局研修そして女性会員研修の四つに分れ、それぞれの専門分野の研修を行います。特に、今回の中央研修会では、今後増加が予想される女性会員をスムーズに受け入れ、現在の女性会員のリーダーシップを養成する目的で女性会員研修を行いますので、幅広く女性会員にお越し頂きたいと思っております。

また、懇親会の後に商青連役員の方々とさらに懇親を深めて頂けるよう、ある

『商青連第12回中央研修会』スケジュール

時 間	研 修 内 容
2月22日(水曜日)	11:30~12:30 中央研修会登録受付
	12:30~12:40 オープニング
	12:40~13:05 オリエンテーション
	13:05~16:30 全体研修 説明 基調講演 地域連携軸と青年部活動 休憩
16:30~17:00	パネルディスカッション
	移動(パークホテル内各室)
17:00~18:30	分科会 次年度会長研修 会長役員研修 事務局研修 女性会員研修
	移動 懇親会 二次会
23日(木曜日)	6:00~6:30 エクスカーション(座禅会場移動)
	6:30~8:00 座禅会(天龍寺)
	8:00~8:30 移動
	8:30~9:30 朝食(7:30~)
	9:30~10:00 オリエンテーション
	10:00~11:00 記念講演
	11:00~12:00 第22回通常会員総会 各自昼食
	13:00~ 各エクスカーション

いは同業種のネットワークづくりの場となつてもらえたらと、YEGラウンジを設けます。こちらの方にもお気軽にお立ち寄り下さい。京都府商工会議所青年部連合会に協力を得まして、特産物展も開催します。又、エクスカーションとして早朝座禅会を行いますので、心身をリフレッシュされるために各単会の次年度会長には御出席賜りますようお願いいたします。

日時は別表の通りです。全単会が100%の出席で中央研修会に御出席いただけるために、も主管青年部と

して京都も精一杯がんばりますので宜しくお願ひします。

中央研修会に「おこしやす」!

全国初の女性会長

京都YEGの会長

岩瀨 絵美子さん



全国商工会議所青年部の皆様におかれましては益々ご清祥のこと存じます。今年度、京都が平安建都一二〇〇年を迎えているこのおめでたき年に、会長を務めさせて頂き、光栄の至りでございます。この重責を身にしてみても感じますと共に、今年度の2大事業であります。KYOの面祭りと商青連主催の「第12回中央研修会」の主管を成功させたく思っています。特に「第12回中央研修会」は各

単会の会長のみならず役員にも枠が拡がり、また女性会員の研修も行います。日本全国の青年部の方より多くの役員様方に京都にお越し頂き、京都らしい心のこもった温かみある中央研修会になります様に京都のメンバー一同、力の限り頑張つて居ます。改めて今年度京都において中央研修会を開催して頂きますことを心より感謝すると共に、全国商工会議所青年部の皆様

今年度の京都の青年部のテーマは「新たな21世紀への勇気ある挑戦」と致しました。大きい視野とより早い情報収集、苦境に勝つて強い人間、そして皆で助け合いながら心の大きな人間になるよう、また青年の体力と情熱と勇気をもって積極的に前進して行きたいという思いです。

私はいつも与えられた生命と日々の生活を、充分納得のいくように生きていきたいと思つて居ります。そして一番大切な愛あるあたたかな心が、一番の起爆剤となつて今日も明日も頑張り続けて生きていけるのだと信じています。

講演会場に熱気と感動

商青連YEGセミナー



平成六年度YEGセミナーを国際会議場(東京商工会議所ビル)にて7月27日に開催いたしました。小谷寛研修委員長による開会挨拶、佐藤善三郎会長の挨拶に続き日本商工会議所・西川領一常務理事にご挨拶をいただきました。本年度のYEGセミナーは3名の講師の方々に講演をお願いしました。

第1講演は朝日ソーラー株式会社、代表取締役・林武志氏に「不況脱出の決め手は攻めの経営・朝日ソーラーの戦略」をテーマに資本ゼロからのスタートにもかかわらず、創業わずか10年で太陽熱温水器の全国シェア50%を達成する営業戦略と強烈な個性とリーダーシップを持った経営戦略について、ご講演いただきました。

第2講演は株式会社ワーマンウェア代表取締役・櫻井秀勲氏に「女性を活かす企業は発展する」をテーマに「いま女性の時代とされる要因とは何か、女性を企業で活かす戦略についてユーマを随所に交えながらご講演いただきました。

第3講演は日本BE研究所長・行徳哲男氏に「野性のエネルギーを取り戻せ」をテーマに「感動を他人に与えられる者が経営者としての資質である」と感性に響くご講演でした。

講演会終了後、夕陽せまる星居を展望しながら東商スカイルームにおいて講師を囲み懇親会を行いました。最後に全国各地よりご参加いただきました青年部の皆様に深く感謝いたします。(研修委員会・本田幸嗣)

翔生 Communication PLAZA

「国土軸・地域連携事業キャラバン」 連携図り4ルートを策定

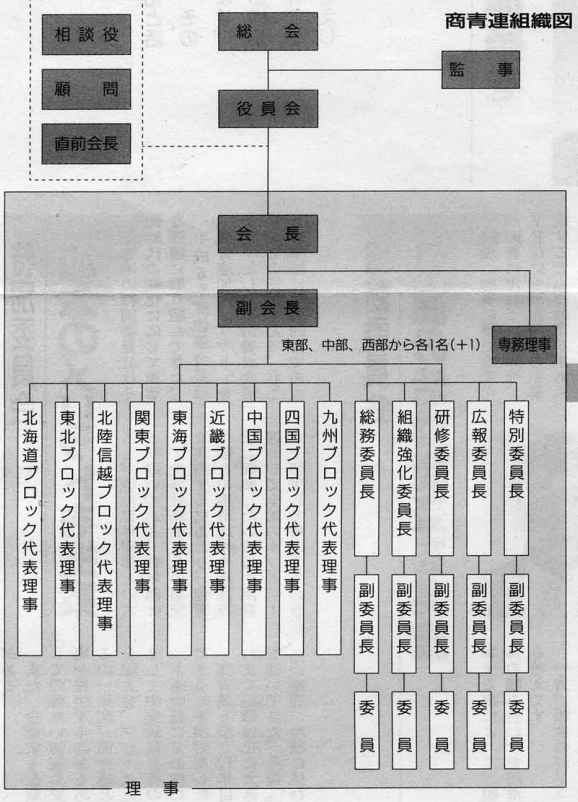
私たち東北六県商工会
所青年部連合会では、「国
土軸・地域連携推進事
業」を展開し、これまでの
「対・東京」の視点を転換
地方都市間の経済、文化交
流ネットワークづくりを促
す狙いで、太平洋側と日本
海側の国土軸を結ぶ四つの
ルートを設定しました。
四ルートは、①北東物流
Aライン、②北緯40度Bラ
イン、③東北ウエストライ
ン、④磐越Sea Seaライ
ンで、それぞれの都市が
道路、鉄道など、どのよう
な手段で結ばれているかを
点検しました。
そして今回東北6県連の
41青年部は、地域の仲間と
若い行動力を結集して、地
域の都市間競争から隣接都
市との産業、歴史、文化、
自然面での交流を中心とし

商青連の組織を改革 ブロック代表理事を新設

ブロック代表理事を新設

商青連では、平成7年4
月より組織改革を行います。
商青連の組織が大きくなり、
新しい時代に対応するため
に役員会の機能をさらに強
化しました。
主な内容は次の通りです。
会長については従来通り
ですが、副会長は現行10名
を4名としました。選出方
法はブロック内(9ブロック
)で互選していたのを、
会長が理事の中から指名し
ます。東部(北海道、東北
関東)、中部(北陸信越、東
海、近畿)、西部(中国、四
国、九州)からそれぞれ1
名、それに次年度会長予定
者です。
副会長は、これまでプロ
ックを担当し、さらに委員
会の委員長を兼務していま
しが、既に業務の質量と
も限界に達していました。

この4名の副会長は会長の
補佐役に専念します。
新たに設置されたのが、
「ブロック代表理事」です。
全国の9ブロックで選出し、
副会長や委員長を兼務しま
せん。
ブロック代表理事の役割
は、定期的な①ブロック別
青年部会長会議②ブロック
内商青連役員会議③プロッ
ク内商青連会長会議を開催し、
県連の意見を吸収し、商青
連事業に反映させることで
す。
ブロック内の情報交換や
連携を強化し県連活動の一
層の活性化を目指すとい
うものです。
また、従来通り委員会に
は委員長をおき、重要事項
を審議してまいります。
(専務理事・徳増長平)



さらに交流を展開するには
どんなインフラ整備が必要
かなど探ることができた。
(古川YEG 吉田順)



北東物流Aライン
白米、北東地区は北東アジア文
化伝来の窓口であり、海路を通じ
て東部の地海路の歴史が作られて
きました。
近年、内陸に高速道路網の整備
が進み、山間の山間部から平野部
に至る地域の連携を促すべくとし
て「リニア」をキーワードとして
各イベント・スポーツ・レクリ
エーション・観光・自然・博物
館等の情報網の整備により広域
の連携を目指す。広域的交流の
中から活性化を促します。



YEGグッズについて教えてください。

A Q YEGグッズには、どんな物がありますか？
日商の調査報告書によると、ジャンパー、Tシャツ等の衣類が多く、変わったところでは、オルゴールや人形もあるようです。61単会が製作しています。

A Q YEGグッズを作る時の、届出は必要ですか？
基本的には、単会の所属する商工会議所の承諾があればいいと考えます。但し、バッジについては、正式な全国統一バッジがありますから、公式な場では認められていませんし、他の団体の方が見た時に間違えるという心配があります。

A Q YEGグッズの制作目的で、参考になるものがありますか？
平成6年度に四国ブロックが、商青連100%加入達成記念のネクタイを一個千円で販売し、六百個売って20万円強の収益を得た例は、無理のない価格で良い例だと思えます。また、単会の意識統一や、メンバーが楽しむ目的であれば、良い事だと思えます。

A Q 他単会のYEGグッズを全て知っておきたいのですか？
全部の写真はありませんが、日商の中小企業振興部小規模事業課にリストがありますので、参考にして下さい。

専務委員長 竹内豊

しょうせいれん なつとわーく

商青連は、設立以来、組織の強化と活動の活性化をめざしてきました。その商青連も、変革の時を迎えています。山積された課題に全国各地から出向しているメンバーが懸命に取り組んでいます。各委員会の奮闘ぶりをお伝えします。

広報委員会

情報ネットワークの構築を

全国400単会、会員数3万人の組織になろうとしている商青連。各地で地域の中核になろうという青年経済人たちのネットワークをどのように構築し、ゆけばよいのか。広報委員会に寄せられる期待と課題は非常に大きいものがあります。年に2回発行する「翔生」、全国の青年部の動きを伝える「情報バック」それに単会で発行する会報のコンク



ールなどで、ほとんど1年間が経ちました。商青連の活動や方向性を会員に知っていただくという作業は、何よりも大切なことです。

しかし今後は、経済や行政関係機関、他の青年団体など対外的にもっと情報発信をしていかなくてはなりません。さらに全国のYEGが相互にビジネスの情報交換ができるようなネットワークの構築が急がれます。一歩ずつ前進していかねばと考へます。(委員長・宮 正弘)

特別委員会

加入のメリットを提案

商青連の特別委員会は、その時代の変化に応じて重要な課題に取り組んできた。平成6年度佐藤会長は「商青連加入メリット」をテーマとして特別委員会活動をとの指示である。私たちが青年部は経済団体である

総務委員会

県連の活動調査を実施

諸般の物事に歴史的变化が顕著に現れている昨今、YEGにも潜在的活力を集めるという改革が求められている。例えば、約3万人の会員が必要に応じて自由な交流できる改革、また諸会議の準備運営に無駄な労力を省き、本来の研修や懇親をより充実した活動にする改革である。



案する事によって、組織全体の噛み合わせを円滑にする考えです。一方、親会のパソコンネットワークを使って遠くの会員相互が、目的を持った会話ができないかを検討して、メニューが限定されますが、明確化し、あるべき姿を提

がある。

また、企業家・起業家としての得たい情報や交換の場を提供する必要もある。この一年間、商青連として全国大会、ブロック大会、そして中央研修会等のメリットを会員にどの様に提供できるかを検討したい。商青連も設立12年目。これまで組織強化に大きな力を注いできた。今後「明日への創造、地域に挑むYEG」



G」のスローガンのもと経済団体としての役割を忘れず委員会活動をしたい。(委員長・賢木新悦)

年と共に幅広いニーズに対応されます。その他、中央研修会主催立候補単会の選定基準、各ブロック大会の共通内容検討等、佐藤善三郎会長からの指示を精一杯具体化して、職責を果たしたいと思

(委員長・竹内 豊)

研修委員会

交流と連携がキーワード



本年度の研修委員会のテーマは「交流と研修」。商青連加入のメリットは、会員にとっては、個人の交流。遠くの同業種交流により貴重な情報入手し、広い範囲でのビジネス交流を通じて、技術的な解決や、販路の拡大をはかることも可能。

もう一つは単会相互の交流。地域は、他都市と連携しながら、機能を分担して共に発展していく時代に「オラが村さえ良ければ」という時代は終わった。地域が連携していくためには、どうしても中核中核都市に青年部が必要だ。中核都市の青年部はビジネス

交流にも不可欠。

7月のYEGセミナーでは経営研修を実施した。2月の中央研修会では、同業種交流と地域連携をテーマに研修する。もちろん中核中核都市への青年部設置も女性幹部研修と稲盛京セラ社長の講演が目玉。多数のご参加を。(委員長・小谷 寛)

組織強化委員会

組織強化は永遠のテーマ

商工会議所活動の一翼を担う各地青年部。従って、商青連として組織の拡充と強化は、組織が存続する限り、非常に重要な課題であり、永遠のテーマと言える。1年間の委員会活動では多くの課題がある中でひとつずつ行動ベースで実現しなければ意味がない。抱負だけでは歩が進まない。ついては、本年度事業計画の第一番に謳われた組織強化について佐藤善三郎会長に伺い、その意向を尊重し左記の活動を展開中である。



①ブロック運営研究会の統「テーマ」を決め「ブロックYEG」(名称変更し日商各ブロック(連合)責任者へ

(委員長・小泉光一郎)

の大会出席、後援名義ご挨拶文等の要請により青年部の認知、地位の向上を計る。②400青年部設置目標加入強化、及び県連設置の促進。③北海道連、東京都の組織強化策を検討実施する。各部署、各委員会と連携し、実現に向け努めたい。(委員長・小泉光一郎)

私の担当の四国・九州地区の方には、度々原稿依頼の電話で、お騒がせいたしました。「翔生」発行に携わられたことは至上の喜びです。佐藤元男(徳島)

— 広報委員会より

EDITOR

「友、遠方より来る、また楽しからずや。YEGのネットワークが大きく広がることを夢に見て：」 本出良一(奈良)

初めての出向で、宮、本出正副委員長のもと、翔生の編集に参画で感謝しております。ブロック大会、地域連携軸と、次回もYEG活動をお届けします。 吉田順一(古川)

初めての商青連への出向でしたが、関東ブロック内の単会紹介、ブロック大会の報告をお届けできました。次号も頑張ります。 西場伸一(桐生)

出向・広報(委)ともはじめてとあって宮委員長・本出副委員長に頼りっぱなし。商青連のメンバーは話するのは得意だけど、原稿はなかなか出てこない。 佐貫公二(出雲)